

信越化学工業株式会社

2019年3月期 決算説明会要旨

日 時	2019年4月26日（金） 16:00 - 17:00
開催場所	朝日生命大手町ビル 27階
会社側出席者	<ul style="list-style-type: none">・代表取締役 会長 金川 千尋・代表取締役 社長 齊藤 恭彦・専務取締役 新機能材料事業、新規製品関係担当 石原 俊信・専務取締役 シリコン事業本部長 上野 進・専務取締役 半導体事業担当 轟 正彦・常務取締役 広報担当 秋本 俊哉・取締役 経理部長 笠原 俊幸・広報部長 足立 幸仁
説明資料	2019年3月期 決算説明資料

* このメモは決算説明会でお話しした内容をまとめたものです。

【挨拶（会長 金川千尋）】

- ・ 2019年3月期は、売上高、利益のいずれも過去最高を更新。
- ・ 業績を大きく牽引したのは、米国シンテック社と半導体事業。シリコン事業、その他のセグメントもそれぞれ増収増益を達成。
- ・ 2019年3月期の配当金は、前年度より一株につき60円増配の200円を予定。
- ・ 今後も健全な財務内容を活かし、販売先行で適時適切な投資を行い、さらなる成長を目指す。

【決算概要説明（社長 齊藤恭彦）】

- ・ 2019年3月期の連結売上高は1兆5,940億円（前年同期比11%増）、営業利益は4,037億円（同20%増）、経常利益は4,153億円（同22%増）、当期純利益は3,091億円（同16%増）。いずれの項目でも過去最高を更新。9期連続の増益を達成。
- ・ 全てのセグメントで前年比増収増益。最高益を牽引したのは、半導体シリコン事業（前期比42%増）、塩ビ・化成品事業（同14%増）、シリコン事業（同13%）の3事業セグメント。
- ・ 塩ビ・化成品はスプレッドの改善。シリコンは、4-6月が主に数量効果、加えて7-9月では価格効果。その後、汎用は価格下落があるも数量は維持。半導体シリコンは主に売値の改善。電子・機能材料は、主に数量効果。
- ・ なお、4Qは当該期固有の事情があった。①シンテックの定期修繕、②直江津工場、群馬事業所での定期修繕前在庫手当て、③生産設備の減損処理等。合計で約220億

円。

- ・ 昨年発表した投資計画は予定通り進捗。2020年3月期の設備投資予想額は、3,000億円。
- ・ 3月に1,000億円の自己株式買い取りを決定し、大部分（約900億円）を実施。株主還元には注意を払っている。自己株式の買い取りは資本政策の一部と考えている。将来の自己株式の買い取りについては、市場や経済情勢、業績ほかの諸事情を踏まえて判断する。
- ・ 1株当たり純利益は726円、ROICは3.3ポイント上昇し21.5%、ROEは0.9ポイント上昇し12.8%。
- ・ 年間配当金は、前期の140円に対して60円増の200円を予定。
- ・ 2020年3月期の業績予想、配当予想は、開示が可能となった時点で発表する。2020年3月期は、終わった決算の数字を新たな起点として事業に取り組む。
- ・ (シンテックの増設の状況を空撮映像にて紹介)
 - 新工場の敷地：整地をして区画も終わり、これから基礎打ちが始まろうというところ。
 - エチレン工場はもう少しで稼働という状況。

【決算詳細説明（取締役経理部長 笠原俊幸）】

- ・ 2019年3月期の設備投資額は2,406億円、減価償却額は1,375億円。
〔セグメント別内訳〕
 - * 設備投資額（2,406億円）：
 - 塩ビ・化成品 764億円（主にシンテック社のエチレン工場の投資）
 - シリコーン 282億円（国内、海外での投資それぞれ約140億円）
 - 機能性化学品 180億円（日本、ドイツでのセルロースの増設投資）
 - 半導体シリコン 693億円
 - 電子・機能材料 401億円（レジストの新工場〈台湾〉、マグネットの増設〈武生、ベトナム〉、光ファイバー用プリフォームの増設）
 - * 減価償却額（1,375億円）：
 - 前期比 255億円増。半導体シリコンで213億円増。
- ・ 2020年3月期の設備投資額は3,000億円、減価償却額は1,600億円強の見込み。換算のための為替レートは、1US\$ = 109円、1€ = 124円。
- ・ 期中平均の為替レートは、USドルの1-12月平均が110円40銭、4-3月の平均が110円90銭で前年と大きな変化はなし。
- ・ 営業利益の為替感応度（円安でプラス効果、円高でマイナス効果）は、年間でUSドルが26億円、ユーロが3億円。

[比較損益計算書〈連結〉]

- ・ 販売費・一般管理費の増加（+約 87 億円）は、運送費などの販売直接費で約 40 億円、研究費で 19 億円の増、人件費で 19 億円の増。
- ・ 営業外損益のうち、為替差損が 2 億円
- ・ 2019 年 3 月期の税率は、24.4%。税率は各国の利益の割合、税額控除の内容で若干振れたりするが、2020 年 3 月期は 25~26%の見込み。

[比較貸借対照表〈連結〉]

- ・ 2019 年 3 月期末の総資産は 3 兆 387 億円（前期末比 1,356 億円の増）。海外子会社の円換算における為替レート差を除いた増加額は 1,738 億円。
- ・ 流動資産で 688 億増。棚卸資産の 516 億円増は製品と原材料在庫が概ね半分ずつ。製品在庫の増加のうち約半分がウエハーの増。原材料の増加はマグネット用を中心とした在庫の積み増しによる。
- ・ 固定資産の増が 1,040 億円
- ・ 負債合計は 5,061 億円で、実質の増加が 220 億円。このうちその他の増（243 億円増）は、主に建設に伴う未払金や設備工事支払手形の増加が要因。

【質疑応答】

〈全 社〉

Q	1,000 億円の自己株式取得の実施方法及び継続性について
A	今回は公的機関が所有している弊社株を買い取りました。買い取りの効果という点では市場から買うのと同じと認識しており、また、短期間に済ませたいという気持ちもありました。一部に持ち合いの解消との憶測もありましたが、そういうことではありません。自己株式の買い取りについては真摯に考えていることをご理解ください。
Q	資金使途について（M&A を含む）
A	昨年度大型の投資をいくつか発表して着々と実施しています。2020 年 3 月期の投資額も約 3,000 億円になる見込みです。今後も業態の拡充、拡大のために投資は積極的に行います。M&A についても、いろいろと検討していますが、実施に至っていません。値段が高くなり過ぎていることもあり、慎重に取り組んでいます。
Q	4Q 減益（固有事情）のセグメント別内訳について
A	（4Q 固有事情による減益額 220 億円の内訳） ・ 塩ビ・化成品で約 110 億円、これは主にシンテックの定修によるものです。

	<p>シリコンで約 30 億円、タイの遊休設備の減損を行ったものが主です。機能性化学品で約 10 億円。半導体シリコンで約 60 億円。電子・機能材料で約 10 億円です。</p> <p>・今期（2020 年 3 月期）利益として大きく戻るものではありません。</p>
Q	2020 年 3 月期の設備投資予想額 3,000 億円の内容について
A	シンテックでの新工場の建設、半導体シリコンにおける長期契約に基づいた増強、シリコン等の投資が主です。昨年発表し、実際に実行に移されている投資案件、それから新たに加わった投資案件によるものです。

〈塩ビ・化成品〉

Q	北米の塩ビ需給の見通しについて
A	<p>・1-3 月の塩ビの業界統計をみると、北米需要は振るわず、前年同期で 7%の減少となっています。当社は業界ほど悪くはありませんでした。輸出を含めた全体では、業界は 1%の減少となりましたが、当社は 3%数量を伸ばしました。特に 3 月の落ち込みが大きく、2 月には国内価格を 2 セント上げることが出来ましたが、4 月にはその反動が起きています。</p> <p>・1-3 月の収益は、前年同期と比べて若干悪化しています。数量は伸ばしましたが、スプレッドが悪化したことが要因です。4 月も昨年同月と比べると、悪化しています。</p> <p>・能力フル生産で売り切ることに自信がありますが、収益をあげるためにも、価格を上げていくことに鋭意取り組んでいます。</p>
Q	今後の苛性ソーダの市況について
A	<p>・アメリカでの市況の反転がやや遅れています。インドにおける輸入再開は、来月にはほぼもとに戻ると考えています。</p> <p>・問題のあったインドとブラジルアルミ大手の需要量は、世界に占める割合は大きくありませんが、心理的な要素として市況に影響してきました。当社としてはこの要素を利用しながら、価格を上げる取り組みをしています。</p>
Q	米国でのエチレン工場の稼働時期、立ち上げによる経済効果について
A	<p>・エチレン工場はスタートアップの最中です。万全を期して一步一步コミッションニング作業を重ねている状況で、稼働は間もなくです。</p> <p>・経済効果について。現在、エチレンのスポット価格は随分安いですが、商取引に組み込まれているスポット価格はごく一部です。契約で購入している価格で見れば採算はとれますが、大儲けできるような価格ではありません。エチレン</p>

工場の建設は、事業基盤の安定化、リスク分散を目的に取り組んだ投資です。エチレンの市場価格が上がれば、相当な効果を発揮するとみています。

〈シリコーン〉

Q	前四半期比で、4Qの売上が横ばい、利益が減益の理由について
A	<ul style="list-style-type: none">・タイの拠点で遊休設備の減損など一時的な要因で、約30億円の減益となっています。・加えて、汎用品の市況が2019年初めから下がったことも、売上と利益に影響しています。しかし、3月末から価格が持ち直してきているので、4-6月にはプラスに出てくると期待しています。・機能品の需給環境は、非常に堅調です。

〈半導体シリコン〉

Q	1-3月及び4-6月以降の口径別状況について
A	<ul style="list-style-type: none">・シリコンウエハーの需要は、足元では調整局面に入っています。半導体、ICの需要を見ますと、2016年頃までは年率7%ぐらい、2017年には15%、2018年には10%と大きく伸びていましたが、昨年の暮れごろから軟化してきました。これは、今まで半導体の需要を牽引してきたデータ産業が投資を少し控え始めたこと、高機能化でデバイス需要を伸ばしたスマホの台数成長が2年連続でマイナスに転じたこと、昨年非常に好調であった産業工作機向けの需要が中国の景気の低下で止まったこと、等が要因として挙げられます。・その影響を受けて、シリコンウエハーもこの1-3月は、10-12月比でマイナス成長となりました。口径別に見ますと、一番落ちているのは150mm以下の小口径品で、この2年間の大きな上昇の反動もあり非常に大きく落ち込みました。次に200mm、それから300mmといった順番で軟化しています。・4-6月以降ですが、大きく2点の要因に影響されると考えます。1点目が、メモリ需要の回復です。データ産業の投資再開、それからスマートフォンの成長度合いによって、半導体産業は大きな影響を受けます。そのもととなる世界的なマクロ景気がどの辺で戻ってくるのかが、最大の要因だと思います。2点目は、デバイスメーカーが多めに発注してきたこととデバイスの生産量が低下してきたことで、ウエハーの在庫が想定よりかなり増えており、このウエハーの在庫調整がどの辺までかかるのかということです。ウエハー需要の回復はデバイスの回復よりも少し遅れるだろうと見ております。4-6月の需要は1-

	3月に同程度かと思います。
Q	価格動向について（契約価格、スポット価格）
A	<p>昨年の10-12月と1-3月で比較しますと、当社では全口径で価格は上昇しました。4-6月についても、全口径で上昇する見込みです。150mm以下、200mmも含め当社はスポット受注の比率は高くありません。価格を下げて受注するという事はありません。</p>
Q	3Qから4Qにかけての減益要因について
A	<p>大きく分けて3つの要因があります。①逐次増設などによる償却費の増加、②2019年度の逐次増設に向けた整備費用（クリーンルームの引っ越し作業や、一部の装置の入れかえ作業等）、③小口径品を中心とした販売数量減。</p>
Q	長期契約について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・長期契約に対して、一時的に少し出荷を繰り延べてほしいというお客様はいらっしゃると思いますが、お客様と丁寧に話し合いをして、契約期間内で処理をしていただくことで同意いただいています。 ・価格について、今回の能力増強投資はお客様一社一社と進めてきたもので、ここで価格を下げることはその投資分を回収できないこととなります。もしここで価格を下げるようなことがあれば、どこのウエハーメーカーも再投資はできなくなります。お客様もそれを理解されていると思いますし、当社としても、価格を一切下げるつもりはありません。 ・2019年の300mmの長期契約の割合ですが、当社は受注数量分のうち95%以上あります。2020年も大部分のお客様とは長期契約を済ませております。その先の長期契約も組まれております。いずれも数量、価格ともに確定した契約になっています。
Q	2020年以降の需要動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・データセンターそのものの投資額を見ると、昨年と今年でそれほど計画上変わっていません。昨年メモリが足りないということで相当買い込まれたと思われませんが、その在庫もかなり減少してきたと聞いています。ただし、データセンターの投資とメモリを中心とした半導体の購入は、分けて考えないと見誤るかもしれません。 ・2020年以降のお客様の見方ですが、早くも2021年以降ウエハーが足りなくなるのではないかと心配されているお客様と、先のところまではまだ考えられないというお客様に二分されます。今年の後半になると皆様のご意見がまとまってくるのではないかと思います。

Q	シリコンウエハーの投資について（需給軟化の中で）
A	<ul style="list-style-type: none"> ・契約は厳然とあり、足元は調整局面であることは間違いないですが、お客様の方も2020年、2021年を見据えていろいろな事業展開をお考えです。今のところ中期的な判断で投資を先延ばしにするようなお話は出ていません。 ・お客様の決算発表も注視していますが、今年の2Qが底で後半から持ち直すという画を描いているお客様が多く、契約に基づく必要な増量に対応する投資は続けていくこととなります。

〈電子・機能材料〉

Q	3Qから4Qの減益要因について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・光ファイバーの調整が現在も続いており、光ファイバー用プリフォームもその影響を受けています。 ・レア・アースマグネットは、産業機器、FA向けの調整が続いています。